



3.11 東日本大震災 復興に向かって

この度の東日本大震災により被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。また無念にも、尊い命を失われた同窓やご家族のご冥福をお祈りいたします。この震災に接し、改めて自然界での人間の無力さを痛感した次第です。

さて本学でも多くの関係者がオール関西学院として被災地の支援に立ち上がりました。以前、私たちが経験した阪神淡路大震災とは比較にならない規模の災害であり、復興には相当の年月がかかると思いますが、息長く活動し少しでもお役に立てればと念じております。希望をもって、被災地が日本がより強く蘇るよう前進していきましょう。

関西学院同窓会会長 大橋 太朗

その時、私は…
岩手県紫波郡日詰教会牧師
井上 智(日12大神)



3月11日
14時46分。
東北地方太平洋沖地震

が発生した。阪神淡路大震災の時、神戸市垂水区にいた私は、あの地震を思い起こし揺れの「違い」に気づいた。阪神淡路の時、縦揺れが続いたが、今回の地震は横揺れが長く続いた。まるで船に乗っているかのような揺れだった。地震後、停電。尋常ではない事態だと気づいた。非常用のラジオで情報を入手。宮古市に大きな津波、釜石にも、大船渡にも…。

宮古教会、新生釜石教会、大船渡教会には同窓の牧師が赴任していた。宮古教会は17mの津波が押し寄せ、新生釜石教会は教会の1階が水没した。大船渡教会は津波の被害は免れたものの、教会員2名が津波にのみ込まれた。日曜日の礼



宮古

拜は被災しながらも守り続け、地震という理不尽な状況の中にあつても、神様のみ言葉を語り続けた。岩手県にある放送局3社に勤めていた卒業生は、テレビやラジオで被害の情報、生存者の情報、様々な生活情報を流し続け、地震直後、不安や悲しみ、心配の中にある人々に小さな希望を与え続けた。

大学勤務の同窓は、学生たちに被災地の情報を提供し、ボランティアコーディネーターとしての役割を担った。そのほかにも、それぞれの現場で支援活動を続けた多くの同窓がいる。

地震から4ヶ月たつたいまも、被災地では瓦礫の撤去が続く。その瓦礫からは異臭が漂う。蠅



この子等の笑顔のためにも

多くの学生が、被災地で活動！

関西学院大学災害復興制度研究所

所長 室崎 益輝



東日本大震災での関学の学生の取り組みは、目覚ましいものがあります。3月の23日には、総合政策学部の学生が3名、先遣隊として被災地に早々と乗り込んでいます。それから今日まで、500名を超す学生が被災地に赴きました。支援に取り組んでいる学生数は、関西の大学の中で最も多いはずで



被災地へ向かう学生

多くの学生たちが被災地に飛び込んで行くてくれていることを、私は、嬉しくも思い、頼もしくも思っています。今回の震災は、日本の将来を大きく変える歴史的現象です。それだけに、将来を託された若者には、被災地や被災者を救う支援者というだけでなく、歴史を変えようとする主人公になつてほしいと、思っています。日本の社会の持っているよいところも悪いところも、被災地の現実に触れる中で感じ取って、挑戦すべき課題を見つけてほしいというのが私の願いでした。

幸いというか、当然のこととしてどうか、関学では大学も学生も同じ思いで、ボランティアバスを仕立て、次々と被災地に駆けつけるようになりまし



石巻

ところ、が、学生たちの被災地を助けたという熱い思いに込めたい。被災地は、どうい

ます。

東日本大震災救援募金 ご協力の御礼
このたび同窓会を通じて呼掛けさせて頂いた救援募金は、海外を含む25支部8団体(6月末判明分)と同窓会本部からの220万円余りを加え計5,224,057円を集めることが出来ました。なお6月末をもって締切られた救援募金の総額は16,301,776円になりました。ご協力を頂きました皆様に心より感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

<送付先>
日本赤十字社、東日本大震災被災者支援委員会、日本キリスト教協議会、学校法人東北学院、学校法人尚絅学院、学校法人宮城学院、石巻専修大学、日本基督教団新生釜石教会、日本基督教団宮古教会、日本基督教団東北教区、絆プロジェクト(関西学院大学学生プロジェクト)